

令和5(2023)年度

科目単位での集計

| 学部名 | 学科名 | 夜間・通信制 の場合 | 実務経験のある教員等による授業科目の単位数 | | | | 省令で定める 基準単位数 | 配置困難 |
|--|------------------------|---------------|-----------------------|-------------|------|----|-----------------|------|
| | | | 全学共通科目 | 学部等 共通科目 | 専門科目 | 合計 | | |
| 工学部 | 機械工学科 ※1 | | 12 | 14 | 0 | 26 | 13 | |
| | 機械工学科 ※1 (自動車工学コース) | | | | 18 | 44 | 13 | |
| | 電気電子工学科 ※1 | | | | 26 | 52 | 13 | |
| | システム情報工学科 ※1 | | | | 10 | 36 | 13 | |
| | 生命環境科学科 ※1 | | | | 14 | 40 | 13 | |
| | 土木建築工学科 ※1 | | | | 48 | 74 | 13 | |
| 工学部 | 工学科 ※2 | | | | 36 | 62 | 13 | |
| 感性デザイン学部 | 感性デザイン学科 ※3 | | | | 72 | 84 | 13 | |
| (備考) ※1 工学部「機械工学科、機械工学科(自動車コース)、電気電子工学科、システム情報工学科、生命環境科学科、土木建築工学科」はR4.4.1募集停止 ※2 工学部「工学科」はR4.4.1設置 ※3 感性デザイン学部「感性デザイン学科」はR4.4.1名称変更(旧名称：創生デザイン学科) | | | | | | | | |

令和5(2023)年度 実務経験のある教員等による授業科目(全学共通科目)

| 区分 | 科目名 | 担当教員 | 単位数 | 実務経験を踏まえた授業の内容 | 学科 |
|--------|---------------|-------|-----|---|----|
| 全学共通科目 | 教職総論 | 佐藤 昭雄 | 2 | 高等学校の教員として青森県内の高等学校や県教育委員会に38年間勤務。実務経験をもとに教職について指導する。 | |
| | 教育課程論 | 山口 吉彦 | 2 | 高等学校の教諭として青森県内の高等学校に勤務した経験を活かし、実例を交えて指導する。 | |
| | 特別活動 | 石毛 清八 | 2 | 中学校教諭・校長としての経験を踏まえ、学習指導要領にある教育の目標や方法、及びその歴史や意義、特別活動における基礎的な知識と技能、教育の手法、評価法について理解する。また、学校行事・生徒会活動の年間計画・実施計画、学級経営案等の作成に係る演習を行う。 | |
| | 生徒指導・進路指導 | 佐藤 昭雄 | 2 | 高等学校の教員として青森県内の高等学校や県教育委員会に38年間勤務。実務経験をもとに教職について指導する。 | |
| | 教育実践論 | 和田 諭 | 2 | 初等中等教育の学校現場経験に基づき、ICT活用指導力に関わる授業と学びや学び方に関する授業を行う。 | |
| | 総合的な学習の時間の指導法 | 寺下 之雄 | 2 | 学校現場経験に基づき、「総合的な学習の時間」設立の意義と背景、授業計画の基本的な考え方や具体例を挙げて、総合的な学習の展開に必要な資質を身に付けるための授業を行う。 | |

令和5(2023)年度 実務経験のある教員等による授業科目(学部共通科目)

| 区分 | 科目名 | 担当教員 | 単位数 | 実務経験を踏まえた授業の内容 | 学科 |
|--------|---------|-------|-----|---|----|
| 学部共通科目 | 放射線の利用 | 佐藤 学 | 2 | エックス線作業主任者としての放射線取扱管理等の実務経験を踏まえ、放射線の取扱や利用について解説。 | |
| | 技術科指導法Ⅰ | 和田 諭 | 4 | 初等中等教育の学校現場経験に基づき、技術科教育の歴史的変遷、技術分野の目標、教育内容、授業形態と指導法、年間指導計画、学習指導案、評価など技術科の教育・指導法の理解を深める。 | |
| | 技術科指導法Ⅱ | 和田 諭 | 2 | 初等中等教育の学校現場経験に基づき、学習指導案の書き方、技術科教師としての心構えなどを学び、技術科教員としての資質を養う。 | |
| | 技術科指導法Ⅲ | 和田 諭 | 2 | 初等中等教育の学校現場経験に基づき、情報活用能力を育成する。 | |
| | 工業科指導法 | 高橋 和雄 | 4 | 学校現場経験に基づき、工業教育の果たす役割およびその歴史、カリキュラム、学習指導、評価について理解し、指導法を学ぶ。 | |

令和5(2023)年度 実務経験のある教員等による授業科目(学科専門科目)

| 区分 | 科目名 | 担当教員 | 単位数 | 実務経験を踏まえた授業の内容 | 学科 |
|----|---------------|------------------------------|-----|--|-------------------------|
| | 自動車工学 | 浅川 拓克, 川島 純一 | 2 | 自動車整備士養成施設での指導経験を踏まえ、自動車の歴史、自動車の各要素、ガソリン自動車、ディーゼル自動車等、自動車工学の講義を指導する科目である。 | 機械工学科 (自動車工学 コース) |
| | 潤滑工学 | 小又 誠一 | 2 | 自動車整備士養成施設での指導経験を踏まえ、国土交通省指定教育内容に基づき、自動車整備士登録試験合格を目的に、自動車のエンジン・環境性能教育となる潤滑工学の講義を指導する科目である。 | 機械工学科 (自動車工学 コース) |
| | 自動車エンジン | 浅川 拓克 | 2 | 自動車整備士養成施設での指導経験を踏まえ、国土交通省指定教育内容に基づき、自動車整備士登録試験合格を目的に、自動車のエンジン・環境性能教育となる自動車構造Ⅰの講義を指導する科目である。 | 機械工学科 (自動車工学 コース) |
| | 自動車構造Ⅰ | 浅川 拓克 | 2 | 自動車整備士養成施設での指導経験を踏まえ、国土交通省指定教育内容に基づき、自動車整備士登録試験合格を目的に、自動車のエンジン・環境性能教育となる自動車構造Ⅰの講義を指導する科目である。 | 機械工学科 (自動車工学 コース) |
| | カーエレクトロニクス | 浅川 拓克 | 2 | 岩手県での自動車整備士養成施設の高校教員としての指導経験を踏まえ、国土交通省指定教育内容に基づき、自動車整備士登録試験合格を目的に、自動車の電子制御装置・電装品の教育となるカーエレクトロニクスの講義を指導する科目である。 | 機械工学科 (自動車工学 コース) |
| | 自動車整備実習 | 浅川 拓克, 小又 誠一 | 6 | 企業における自動車整備士経験を踏まえ、国土交通省指定教育内容に基づき、最新の自動車の整備技術に対応できる人材の育成教育である。自動車整備実習を指導する科目である。 | 機械工学科 (自動車工学 コース) |
| | 自動車構造Ⅱ | 浅川 拓克 | 2 | 岩手県での自動車整備士養成施設の高校教員としての指導経験を踏まえ、国土交通省指定教育内容に基づき、自動車整備士登録試験合格を目的に、自動車のシャシ構造の教育である自動車構造Ⅱの講義を指導する科目である。 | 機械工学科 (自動車工学 コース) |
| | 情報通信工学Ⅰ | 柴田 幸司 | 2 | 10年間の企業での電気電子・情報通信・電磁波応用機器の設計開発での実務経験を踏まえた情報通信システムおよび構成部品の具体的な設計法に関する授業を実施する。 | 電気電子 工学科 |
| | 情報通信工学Ⅱ | 柴田 幸司 | 2 | 10年間の企業での電気電子・情報通信・電磁波応用機器の設計開発および量産化の実務経験を踏まえた情報通信システムおよび構成部品の具体的な設計法に関する授業を実施する。 | 電気電子 工学科 |
| | 通信ネットワーク工学 | 柴田 幸司 | 2 | 10年間の企業での電気電子・情報通信・電磁波応用機器の設計開発および量産化の実務経験を踏まえたTCP/IPプロトコルに基づいた通信システムの仕組みや実現法についての授業を実施する。 | 電気電子 工学科 |
| | 電磁波工学 | 柴田 幸司 | 2 | 10年間の企業での電気電子・情報通信・電磁波応用機器の設計開発での実務経験を踏まえた回路設計も含む電波を用いた情報通信システムおよび構成部品の具体的な設計法に関する授業を実施する。 | 電気電子 工学科 |
| | 情報通信法規 | 奥村 幸彦 | 2 | 民間企業の通信研究所において、研究員として無線通信技術の研究開発に関する実務に携わった教員が、電気通信各分野についての基礎的概念を平易に指導する科目である。 | 電気電子 工学科 |
| | 電気電子材料工学 | 石山 俊彦 | 2 | 民間企業の電気通信研究所において、研究員として半導体デバイス材料の研究開発に関する実務に携わった教員が、電気回路、電子回路に用いられる材料の基礎的概念を平易に指導する科目である。 | 電気電子 工学科 |
| | 電気機器工学 | 石山 俊彦 | 2 | 民間企業の電気通信研究所において、研究員として電力変換技術の研究開発に関する実務に携わった教員が、変圧器、電動機、発電機の基礎的概念を平易に指導する科目である。 | 電気電子 工学科 |
| | 電気利用工学 | 石山 俊彦 | 2 | 民間企業の電気通信研究所において、研究員として通信電力技術の研究開発に関する実務に携わった教員が、照明、熱利用、電気化学、エネルギー環境の各分野についての基礎的概念を平易に指導する科目である。 | 電気電子 工学科 |
| | 電気法規と電気施設管理 | 加賀 昌宏 | 2 | 民間企業において電気設備の実務に携わった教員が、電気設備等の保安その他に関する法的規制についての基礎的概念を平易に指導する科目である。 | 電気電子 工学科 |
| | 電子情報システム実験 | 神原 利彦, 柴田 幸司, 石山 武, 越田 俊介 | 2 | 電気電子機器等の設計開発での実務経験を踏まえた情報通信システムの実習を行う。 | 電気電子 工学科 |
| | 電気エネルギーシステム実験 | 花田 一磨, 石山 俊彦, 信山 克義, 石山 武 | 2 | 民間企業の電気通信研究所において、研究員として実験に携わった教員が、電気エネルギー実験について、実験技術のほか、手順や安全対策、レポート作成についても平易に指導する科目である。 | 電気電子 工学科 |
| | 電気電子設計製図 | 神原 利彦, 花田 一磨, 石山 武, 湧井 真一 | 2 | 民間企業の研究所や開発線本部において、長年にわたり発電機や電動機の研究開発に関する実務に携わった教員が、電動機の原理、構造、特性および設計技術について基礎的概念を平易に指導する。 | 電気電子 工学科 |

| 区分 | 科目名 | 担当教員 | 単位数 | 実務経験を踏まえた授業の内容 | 学科 |
|--------|-----------|-------------------------|-----|--|-----------|
| 学科専門科目 | 電磁気学演習Ⅰ | 石山 俊彦 | 2 | 民間企業の電気通信研究所で、研究員として電子顕微鏡や電子ビーム描画装置を使用して研究開発に関する実務に携わった教員が、電磁気学の基本的概念を平易に指導する科目である。 | 電気電子工学科 |
| | ロボット工学 | 藤岡 与周,本波 洋 | 2 | 本波洋は、電気産業メーカーにて電気電子情報技術の事業化に35年従事した実務経験がある。これに依拠してロボットの主要構成技術、インターフェース、プログラミングなど全般的な指導をする。 | システム情報工学科 |
| | システム数理 | 武山 泰 | 2 | 技術吏員としての県職員の経験と、研究員としての国立研究所での経験を有する教員が実務経験に基づき、ネットワークの最短路探索、アローダイアグラムによる工程計画や動的計画法による最適化などについて講義する。 | システム情報工学科 |
| | パターン情報処理 | 小池 敦 | 2 | 企業で人工知能・パターン情報処理分野の業務に関わった経験を活かし、実社会における学習内容の活用例や実データを扱う際に必要となる前処理等の技法を解説する。 | システム情報工学科 |
| | マルチメディア工学 | 大志田 憲 | 2 | 企業などで情報通信などマルチメディアの分野の業務に関わった経験のある教員が、マルチメディアの中核をなすデジタル技術を、実務経験を交え実践的に指導する科目である。 | システム情報工学科 |
| | 設計・製図 | 嶋脇 秀隆,紺谷 陽広 | 2 | システム・ソフトウェア開発会社にてCADによる設計業務を経験した教員が、3D-CADによる設計法について実務経験での話題も交えながら実習を通して実践的な講義を行う(第8回～第15回)。 | システム情報工学科 |
| | 食品分析学 | 本田 洋之 | 2 | 食品企業での勤務経験を持つ教員が、食品の研究開発および品質管理に用いられる各種分析法の原理と方法、および関連する法律について解説する。 | 生命環境科学科 |
| | 食品製造学 | 鶴田 猛彦 | 2 | 県立研究所、国立研究所および国の出先機関在勤中に行った酒類を含む発酵食品製造に関する内容を講義の中に盛り込みながら解説する。 | 生命環境科学科 |
| | 食品工学 | 星野 保 | 2 | 国立研究所での企業との共同研究に従事した経験を活かし、食品製造における化学工学的概念とその応用について解説する。 | 生命環境科学科 |
| | 生物有機化学 | 鶴田 猛彦 | 2 | 県立および国立研究所で行った微生物を用いた物質の変換反応について紹介し、通常の有機化学反応と生物が行う反応の相違点を解説する。 | 生命環境科学科 |
| | 酵素工学 | 星野 保 | 2 | 国立研究所での微生物酵素の開発およびその物質生産への応用研究に従事した経験を活かし、酵素の産業利用について解説する。 | 生命環境科学科 |
| | 食品衛生学 | 星野 保 | 2 | 国立研究所での微生物による生理生態の解析に従事した経験を活かし、食品衛生上重要な生物・化学的知識とその応用・関連する法令について解説する。 | 生命環境科学科 |
| | 臨海実習 | 田中 義幸 | 2 | 国立の研究機関で得た野外調査の経験を活かして、大自然の中で、変化に富んだ生態系を材料とした実習を行う。 | 生命環境科学科 |
| | 電気電子工学概論 | 石山 俊彦 | 2 | 民間企業の電気通信研究所において、研究員として電子回路、半導体デバイスの研究開発に関する実務に携わった教員が、電気回路、電子回路の基礎的概念を平易に指導する科目である。 | 土木建築工学科 |
| | 地盤工学設計・演習 | 金子 賢治,市川 裕一郎 | 2 | 企業での経験をもとに実務設計時の事例を紹介を交えての解説・演習指導を行う。 | 土木建築工学科 |
| | 計画数理 | 武山 泰 | 2 | 技術吏員としての県職員の経験と、研究員としての国立研究所での経験を有する教員が実務経験に基づき、ネットワークの最短路探索、アローダイアグラムによる工程計画や動的計画法による最適化などについて講義する。 | 土木建築工学科 |
| | 道路・交通工学 | 武山 泰 | 2 | 技術吏員として県職員の経験を有する教員が実務経験に基づいて、道路の設計、積算、事業の流れなどについて講義する。 | 土木建築工学科 |
| | 応用構造力学 | 高瀬 慎介 | 2 | 解析業務での経験した事例を踏まえて、トラス・ラーメン構造の解析方法、マトリックス構造解析による計算について講義している。 | 土木建築工学科 |
| | 土木工学実験Ⅱ | 高瀬 慎介,竹内 貴弘,鈴木 拓也,加藤 雅也 | 2 | 大手ゼネコン技術研究所海洋Gや土木設計部に所属した経験をもとに、水工学分野について水理模型実験、データ整理、考察、レポート作成、および発表資料作成についての指導。 | 土木建築工学科 |
| | 橋工学設計・演習 | 高瀬 慎介 | 2 | 解析業務での経験した事例を踏まえて、橋梁の基礎的な設計方法について演習を交えて講義している。 | 土木建築工学科 |
| | 施工技術 | 石藤 千春 | 2 | 実際の現場での施工の基礎から応用まで、実際の例をあげながら実務に役立つように講義する。 | 土木建築工学科 |
| | 火薬学 | 黒川 孝一 | 2 | 土木技術者として必要な火薬類の性質や発破に関する基礎的な知識について講義する。 | 土木建築工学科 |
| | 建築設計Ⅱ | 小藤 一樹 | 3 | 建築設計に関する知見やノウハウを総合組織設計事務所を経験した事例を交えて解説・指導する。 | 土木建築工学科 |
| | 建築設計Ⅲ | 黒坂 貴裕,川口 實,堀内 将人 | 3 | 建築設計・監理などに関する知識を、実務で経験した事例を交えて解説する。 | 土木建築工学科 |

| 区分 | 科目名 | 担当教員 | 単位数 | 実務経験を踏まえた授業の内容 | 学科 |
|----------------|------------|--|-----|---|-------------|
| 学科 専門 科目 | 建築設計Ⅳ | 福士 讓, 福士 美奈子 | 3 | 一級建築士事務所での実務経験による事例・知識を交えて建築設計に関する内容を指導する。 | 土木建築 工学科 |
| | 建築法規 | 小藤 一樹 | 2 | 建築法規に関する知見やノウハウを総合組織設計事務所経験した事例を交えて解説する。 | 土木建築 工学科 |
| | 都市計画 | 小藤 一樹 | 2 | 都市計画・都市デザインと建築基準法集団規定に関する知見やノウハウを総合組織設計事務所経験した事例を交えて解説する。 | 土木建築 工学科 |
| | 化学工学 | 高橋 晋 | 2 | 生産工場での実務経験を踏まえて、現場で実際に利用する際の考え方などを織り交ぜながら講義する。 | 土木建築 工学科 |
| | CAD基礎演習 | 西尾洗毅、豊川悠 | 2 | CADの基本操作についての講義及び演習課題としてCADを使った製図を行う。合わせて実務上での問題点・課題も教示する。 | 土木建築 工学科 |
| | 応用測量学及び実習 | 中村 寛之 | 2 | 測量設計会社での長年の実務経験を活かし、測量学に関する応用的・実践的な知識・技術を具体的な事例を交えて解説する。 | 土木建築 工学科 |
| | 総合デザインⅡ | 小藤 一樹, 高瀬 慎介, 竹内 貴弘, 加藤 雅也, 阿波 稔, 金子 賢治, 鈴木 拓也, 迫井 裕樹, 西尾 洗毅, 黒坂 貴裕, 福士 讓, 外里 健太 | 2 | 企業での経験をもとに実務設計時の事例を紹介を交えての解説・演習指導を行う。 | 土木建築 工学科 |
| | 木質構造 | 福士 讓 | 2 | 設計実務や建築士試験で活用頻度の高い知見を授業内容に取り入れる。 | 土木建築 工学科 |
| | 特別専攻ゼミナールⅡ | 小藤 一樹, 福士 讓 | 2 | 建築設計・計画に関する知見やノウハウを建築設計事務所経験した事例を交えて解説・指導する。 | 土木建築 工学科 |
| | 特別専攻ゼミナールⅢ | 小藤 一樹, 福士 讓 | 2 | 建築設計・計画に関する知見やノウハウを建築設計事務所経験した事例を交えて解説・指導する。 | 土木建築 工学科 |
| | 建築設計Ⅰ | 西尾 洗毅, 桜澤 卓馬, 古戸 睦子 | 3 | 小規模な建物の設計を通してスケール感覚、ゾーニング、動線計画、エスキスなど基本的な設計手法について設計演習を行う。 | 土木建築 工学科 |
| | 電磁気学Ⅰ | 石山 俊彦 | 2 | 民間企業の電気通信研究所で、研究員として電子顕微鏡や電子ビーム描画装置を使用して研究開発に関する実務に携わった教員が、電磁気学の基本的概念を平易に指導する科目である。 | 工学科 |
| | 電子回路Ⅰ | 柴田 幸司 | 2 | 10年間の企業での電気電子・情報通信・電磁波応用機器の設計開発および量産化の実務経験を踏まえた信号増幅回路などの電子回路の設計に関する授業を実施する。 | 工学科 |
| | 情報通信工学 | 山口 広行 | 2 | 通信キャリアにおける全国規模のIPネットワークの開発業務経験(2年間)をふまえ、情報ネットワークの基礎である階層化アーキテクチャとTCP/IP、イーサネット等について、実務経験での話題も交えながら講義を行う。 | 工学科 |
| | 構造力学Ⅰ | 高瀬 慎介 | 2 | 解析業務での経験した事例を踏まえて、基本的な構造物(はりなどの静定構造)計算方法、断面の応力計算について講義している。 | 工学科 |
| | 建築概論 | 小藤 一樹, 西尾 洗毅, 野口 巧巳, 黒坂 貴裕, 福士 讓, 安部 信行 | 2 | 建築設計や設計コンサルタントでの実務経験を持つ教員が、建築学および建築業務に関する内容を数回講義する。 | 工学科 |
| | 構造力学Ⅱ | 高瀬 慎介 | 2 | 解析業務での経験した事例を踏まえて、はりのたわみ量の計算方法(仮想仕事の原理や弾性荷重法)や不静定構造物の計算方法について講義している。 | 工学科 |
| | 住居計画 | 福士 讓 | 2 | 居住系施設やインテリアに関する知見やノウハウを数多くの住宅を設計した経験を元に設計実例を交えて解説する。 | 工学科 |
| | 建築史 | 黒坂 貴裕 | 2 | 埋蔵文化財及び文化財建造物の調査報告業務の経験を交えて講義する。 | 工学科 |
| | プログラミング言語 | 武山 泰, 橋本 まどか | 2 | 研究員としての国立研究所で大気汚染予測プログラムを作成した経験を有する教員が、実務でプログラムを開発した経験に基づき、プログラミングについての講義を行う。 | 工学科 |
| | 産業情報論 | 本波 洋 | 2 | Sierのシステム開発部門及び管理部門での35年間の経験を活かし、情報産業界の関連法規のポイントとサービスマネジメントの体系について、ソフトウェア開発における各種の勤務・委託契約の実務とシステム運用管理におけるITILの適用方法など、実例を交えた講義を行う。 | 工学科 |
| | 有機化学 | 鶴田 猛彦 | 2 | 企業の研究所で行った天然物の合成の研究例などを講義の中に組み込んで解説する。 | 工学科 |
| | 微生物学 | 星野 保 | 2 | 国立研究所で微生物の研究および開発に携わった経験のある教員が、解説する。 | 工学科 |
| | 微生物工学 | 星野 保 | 2 | 国立研究所での微生物酵素の開発およびその物質生産への応用研究に従事した経験を活かし、微生物の産業利用について解説する。 | 工学科 |

| 区分 | 科目名 | 担当教員 | 単位数 | 実務経験を踏まえた授業の内容 | 学科 |
|--------|--------------|--------------------------|---|--|----------|
| 学科専門科目 | 海洋土木Ⅱ | 許 正憲, 澤田 郁郎 | 2 | 国立研究開発法人海洋研究開発機構 (JAMSTEC) が実施している海洋掘削技術開発等について、実際の掘削機器・特殊技術などを紹介しながら授業を行う。 | 工学科 |
| | インテリアデザイン | 福士 讓 | 2 | 建築設計事務所での住宅や店舗など設計実務の経験から、インテリアデザインに必要な知識やノウハウの指導にあたる。 | 工学科 |
| | ロボット工学概論 | 藤岡 与周, 本波 洋, 太田 勝, 神原 利彦 | 2 | 本波洋は、電気産業メカにて電気電子情報技術の事業化に35年従事した実務経験がある。これに依拠して講義においては、移動に関わるアクチュエータについて説く。 | 工学科 |
| | 近代建築史 | 黒坂 貴裕 | 2 | 文化財建造物の調査報告業務の経験を交えて講義する。 | 工学科 |
| | ロボット工学実習 | 本波 洋, 藤岡 与周, 太田 勝, 神原 利彦 | 2 | 本波洋は、Sire社で35年間、システム開発部門や管理部門に従事した経験を有する。工場自動化などの経験を生かし、ロボット工学の実習では、主要な構成技術、インターフェース、プログラミングなど全般にわたる指導を行う。 | 工学科 |
| | 知的財産論 | 富沢 知成 | 2 | 弁理士としての経験をもとに特許・意匠を初めとする産業財産権や著作権など、知的財産(知財)に関する授業を担当。 | 感性デザイン学科 |
| | デッサン | 皆川 俊平 | 2 | 担当教員は、美術作品の制作、展覧会等、公募等での受賞経験を有し、またデザインに関する実務経験を有する。作家ないしはデザイナー等のデザイン当事者・実務者としての視点から、制作に必要な基礎事項を指導する。 | 感性デザイン学科 |
| | デザイン思考 | 高屋 喜久子, 皆川 俊平 | 2 | 授業担当者(高屋・皆川)の実務経験から自己と社会とデザインの関係性を学びデザイン実践の考え方を体得する。 | 感性デザイン学科 |
| | デザイン思考 | 皆川 俊平 | 2 | 授業担当者(皆川)の実務経験から自己と社会とデザインの関係性を学びデザイン実践の考え方を体得する。 | 感性デザイン学科 |
| | プレゼンテーション | 高屋 喜久子 | 2 | デザインプロデューサーおよびデザイナーの実務経験から、プレゼンテーション実践における心構えや技法とポイントを伝える。 | 感性デザイン学科 |
| | デザイン史 | 高屋 喜久子 | 2 | デザイナーとしての実務経験から、デザインの歴史の変遷・意義に関わる授業を担当。 | 感性デザイン学科 |
| | 図学 | 宮腰 直幸 | 2 | 建築設計事務所での勤務経験から、図面作成に必要な図学的知識や作図方法などの指導にあたる。 | 感性デザイン学科 |
| | Webデザイン | 東方 悠平, 米田 佳介 | 2 | web制作会社に勤務し、デザイナーとして実務に携わってきた経験を持つ教員が、その経験を活かしてweb制作のコンセプト策定、制作シミュレーション、コンテンツ制作等の授業にあたる。(米田) | 感性デザイン学科 |
| | 広告論 | 星 聡昭, 高橋 史朗 | 2 | 広告制作会社の代表取締役である教員が、長年にわたる広告制作業務と代理店業務の経験を背景として、広告制作物の批評、広告戦略を講義するとともに、その知識を制作物に反映させる課題を通じ、広告デザインの方法論の定着を図る科目である。第2回～13回のうち、広告制作に関わるメソッドロジー、制作スキルに関わる内容がこれにあたる。 | 感性デザイン学科 |
| | イラストレーションⅠ | 安斉 将 | 2 | イラストレーションに関する知識をイラストレーターとしての経験事例を交えて解説する。 | 感性デザイン学科 |
| | イラストレーションⅡ | 安斉 将 | 2 | イラストレーションに関する知識をイラストレーターとしての経験事例を交えて解説する。 | 感性デザイン学科 |
| | 彫刻 | 東方 悠平 | 2 | 講師として高等学校の美術教育の現場で彫刻の授業を実践してきた経験を踏まえ、彫刻の歴史や芸術史上の役割について講義を行うと同時に彫刻作品を制作する。 | 感性デザイン学科 |
| | 美術史 | 皆川 俊平 | 2 | 非営利活動を行う任意団体の主宰による、展覧会キュレーション、アートマネージメント、広告デザインの実務および文化政策提言を経験した教員が、展覧会企画・運営の観点を交え、史的側面に加えて実務的観点からも解説・指導する。 | 感性デザイン学科 |
| | ビジュアルデザイン演習Ⅲ | 高屋 喜久子 | 2 | 企業内デザイナーとして、ビジュアルデザイン・プロダクトデザインの実務経験を有し、デザイン会社経営者、デザインプロデューサーとして製品開発プロジェクトや展示会開催などに関わった。その経験を活かし、デザインアイデアの実装・実現化に関する技能と、運営手法について指導する。 | 感性デザイン学科 |
| | ビジュアルデザイン演習Ⅳ | 高屋 喜久子 | 2 | 企業内デザイナーとして、ビジュアルデザイン・プロダクトデザインの実務経験を有し、デザイン会社経営者、デザインプロデューサーとして製品開発プロジェクトや展示会開催などに関わった。その経験を活かし、デザインアイデアの実装・実現化に関する技能と、運営手法について指導する。 | 感性デザイン学科 |
| | キュレイトイング論 | 皆川 俊平 | 2 | 非営利活動を行う任意団体の主宰による、展覧会キュレーション、アートマネージメント、広告デザインの実務および文化政策提言を経験した教員が、デザインアイデアの実装・実現化に関する概念と技能、ファンドレイジングなど運営手法について事例紹介を行い演習としてその実施を指導する。 | 感性デザイン学科 |
| | インテリアデザインⅠ | 宮腰 直幸 | 2 | 建築設計事務所での勤務経験から、インテリアデザインに必要な知識の指導にあたる。 | 感性デザイン学科 |
| | インテリアデザインⅡ | 豊川 悠 | 2 | 建築設計事務所での勤務経験から、インテリアデザインに必要な知識やノウハウの指導にあたる。 | 感性デザイン学科 |
| 住環境学 | 福士 讓 | 2 | 居住系施設やインテリアに関する知見やノウハウを総合組織設計事務所経験した事例を交えて解説する。 | 感性デザイン学科 | |

| 区分 | 科目名 | 担当教員 | 単位数 | 実務経験を踏まえた授業の内容 | 学科 |
|----------------|----------------------------|--------------|--|--|----------|
| 学科 専門 科目 | リビングウェアデザイン演習Ⅱ | 宮腰 直幸 | 2 | 建築設計事務所にて実務設計に携わった経験から、クライアントやユーザとのコミュニケーションを通じてのデザイン開発について指導を行う。 | 感性デザイン学科 |
| | リビングウェアデザイン演習Ⅲ | 宇野 あずさ | 2 | 教育施設の内装デザインによる実務経験を踏まえ、空間デザインによる観点から地域振興による課題解決の検討、企画立案、設営作業を行うための授業を行う。 | 感性デザイン学科 |
| | 製図 | 宮腰 直幸 | 2 | 建築設計事務所での勤務経験から、図面作成に必要な図学的知識や作図方法などの指導にあたる。 | 感性デザイン学科 |
| | 美術科指導法Ⅰ | 石毛 清八 | 4 | 中学校教諭・校長としての経験を踏まえ、学習指導要領にある教育の目標や方法、及びその歴史や意義、美術教育における基礎的な知識と技能、教育の手法、評価法について理解する。また、具体的な授業計画を立て、その学習指導案に基づいて模擬授業を行う。 | 感性デザイン学科 |
| | 美術科指導法Ⅱ | 石毛 清八 | 2 | 中学校教諭・校長としての経験を踏まえ、指導計画の作成、学習指導、評価の工夫、教材の見直しや開発研究を実践し、多様な生徒の個性や能力に対応できる教師としての資質と指導力を身につけるための授業を行う。 | 感性デザイン学科 |
| | 美術科指導法Ⅲ | 石毛 清八 | 2 | 中学校教諭・校長としての経験を踏まえ、教育実習での実際の経験を基に理想的な教育手法、教師像について考える総合的な講義である。教材の見直しと新たな教材の開発を行うなど、生徒一人ひとりの感性や個性を伸ばし、意欲や充実感を高め表現力や鑑賞力を伸ばすための授業を行う。 | 感性デザイン学科 |
| | 工芸科指導法 | 石毛 清八 | 4 | 中学校教諭・校長としての経験を踏まえ、芸術科(工芸)の教育について学習指導要領を理解し、各種素材を持つ教育的価値の検討、授業計画の立案、模擬授業等を行い、教育実践手法を理解するための授業を行う。 | 感性デザイン学科 |
| | 道徳教育 | 石毛 清八 | 2 | 中学校教諭・校長としての経験を踏まえ、学習指導要領にある教育の目標や方法、及びその歴史や意義、道徳教育における基礎的な知識と技能、教育の手法、評価法について理解する。また、具体的な授業計画を立て、その学習指導案に基づいて模擬授業を行う。 | 感性デザイン学科 |
| | プロトタイピング | 宇野 あずさ | 2 | 展覧会等の企画・実施におけるデザイン実務および作品制作・発表等の経験を有した教員が、実務的視点から講義を行う。 | 感性デザイン学科 |
| | ビジュアルデザイン論 | 高屋 喜久子 | 2 | デザインプロデューサーおよびデザイナーの実務経験から、ビジュアルデザイン実践における技法とポイントを伝える。 | 感性デザイン学科 |
| | ビジュアルデザイン演習 | 皆川 俊平 | 2 | 地域でのアートプロジェクトや、商品開発・パッケージデザイン等の経験を踏まえ、実務におけるデザインプロセスを指導する。 | 感性デザイン学科 |
| | 絵画Ⅰ | 大嵐 雅子 | 2 | 画家として現在も活動を行なっている教員が、絵画の表現技法・実践に関わる内容を担当・指導する。(大嵐雅子) | 感性デザイン学科 |
| | 絵画Ⅱ | 大嵐 雅子 | 2 | 画家として現在も活動を行なっている教員が、絵画の表現技法・実践に関わる内容を担当・指導する。(大嵐雅子) | 感性デザイン学科 |
| | 地域コミュニティ論 | 川守田 礼子, 小倉 学 | 2 | 八戸クリニック街かどミュージアム館長、学芸員等の経験を活かし、日本思想や日本文化、地域コミュニティに関する講義を担当する。 | 感性デザイン学科 |
| 地域文化論 | 川守田 礼子, 石毛 清八, 滝尻 善英, 泉 彩菜 | 2 | 石毛:八戸市中学校教諭(美術)・校長の経験を活かし、美術・伝統工芸分野の講義を担当する。 滝尻:青森県高等学校教諭(社会)、八戸御前神社神職、青森県文化財保護協会会長、八戸市文化財審議委員等の経験を活かし、歴史、文芸、文化財分野の講義を担当する。 泉:日本舞踊師範の経験を活かし、舞踊実習を担当する。 | 感性デザイン学科 | |